

午後 I 試験

問 1

問 1 では、ステークホルダマネジメント、スケジュール管理、リスク対応計画の策定など、プロジェクト計画策定の基本的な事項について出題した。作業工程図に基づいたスケジュールの検討やクリティカルパスの判定など、スケジュール管理の基本的な問題については、正答率は高かった。

設問 1(2)では、システムの専任者がいない現場事務所の負担軽減という要望への対応策を解答する設問であったが、サーバ監査の受入れという視点からの対応策を記述している解答が散見された。対応すべきステークホルダの要求を正確に把握して、その要求に適切に対応する姿勢を身に付けてほしい。

設問 2(2)では、外部設計の作業について当初の前提条件が変わったことを受けて、そのリスクについて解答する設問であったが、既存の EDMS と Z 社アプリケーションソフトウェアの機能が相違する可能性の指摘だけで、スケジュールへの影響の指摘がない解答が目立った。プロジェクトのリスクの把握については、前提条件がどのように変わったか、それが管理対象項目（この設問の場合はスケジュール）にどのような影響をもたらすかという視点を明確にして、解答するようにしてほしい。

問 2

問 2 では、リスクマネジメント、ステークホルダマネジメント、コミュニケーションマネジメントの実務的な側面について出題した。ステークホルダを特定する設問や、対応すべき課題を特定する設問に対する正答率は高かった。

設問 2(1)では、最終利用者である経営会議メンバにビジネス上の視点で確認したいことを解答してほしいだったが、システム仕様上で確認したいことを述べた解答が目立った。この情報システムは経営の要望を実現することが目的であることを意識してほしい。

設問 3(2)では、年間予算や要員計画が既に確定している中で、優先的な開発プロジェクトをどのように進めるかという実務能力を問う設問であった。予算や要員の裏づけを考慮せず、単に要員を出すという解答が多く見られた。業務を進める上で、予算や要員の裏づけを確認することの重要性を認識してほしい。

設問 3(3)では、設問の観点からリスクを具体的に解答することを求めた。しかしながら、問題文の状況設定をそのまま転記した解答や、一般論での解答、リスク源とリスクの関係が不明確な解答が多く見られた。リスクの原因となる事象とそれが管理項目にどのように影響するかを意識して対応する習慣を身に付けてほしい。

問 3

問 3 では、システム開発プロジェクトの企業合併に伴う計画変更を題材に、プロジェクトの外部からの影響によるスケジュールの変更やリスクへの対応について出題した。

設問 2(1)では、V 社 ERP 導入と追加開発のスケジュールを決める大きな要因は開発スコープである。業務プロセスを統一するのであれば開発スコープは変わらず、その場合はスケジュールに大きな変更は生じないという状況設定に沿って解答してほしい。“業務プロセスを統一するから”という設問の記述を転記した解答が散見されたのは残念だった。

設問 4(1)では、M 社の定期改修を中止するよう調整した理由について問うた。B 部長にとって 1 月末までに移行方式設計・移行ツール開発を完了させることが重要であり、それを実現するためには要員が不足することと要員が不足する原因が問題文に記述されているので、それを読み取って解答してほしいだったが、正答率は低かった。また、“データ仕様の凍結の他に”と条件が明記されているにもかかわらず、データ仕様の変更に起因する手戻りに関して記述している解答が目立った。

問 4

問 4 では、スマートフォン向けのアプリケーションソフトウェアの開発を題材に、ステークホルダに関するリスクの識別とその評価、対応について出題した。

設問 1 では、顧客満足度の向上を最優先とするステークホルダへのプロジェクトマネージャ（PM）の対処が、副作用としてプロジェクトにとって適切でない状況を生み出すおそれがあるとして、その内容を問うた。“開発規模が増大し、品質不良や納期遅延が発生する”など、ステークホルダの特性として書かれている問題文の記述をそのまま転記する解答が多かった。PM の対処を踏まえた上で、踏み込んで解答してほしい。

設問 2(1)では、委託先の管理者にプロジェクトマネジメント業務の一部を委託する PM の目的を問うた。この委託先と初めての取引であること、詳細設計以降は請負契約となること、PM は請負契約部分に関して念のため事前に確認しておくべきことがあると考えていること、という状況設定から、どのようなリスクを想定し、この行動が何を目的とするのかを考えて解答してほしい。しかし、単に“PM の負荷を軽減するため”といった解答があったのは残念だった。また、“問題の早期発見と対処”、“状況の正確な把握”など、対象とする工程が不明確な解答も多かった。PM は、様々な特性をもった多様なステークホルダに対応する必要がある。論理的で明解な表現力を身に付けてほしい。